

学校心理 出題意図・解答例等

選択科目 共通問題 問題1

問題1

ある教材会社ではタブレット型パソコンをつかった算数教材を開発した。この度、これを児童に実施してみてその効果を見ることとなった。しかし、以前からこの教材には批判もあった。パソコンが好きな児童にはプラスに作用するが、パソコンをさして好まない児童にはマイナスになるという指摘があったのだ。だからこの教材は必ずしも万人向きとはいえないのではないかというのである。

この指摘を含め、このタブレット型パソコン教材の効果をできるだけ簡単に調べるためにはどのような実験が考えられるか、実験計画を立てなさい。

なお、実験は1度だけ実施しても、2度以上実施してもよい。また、回答中に交互作用、独立変数、従属変数の3つの用語を用いること。(60点)

解答例

解答例は公表しない

選択科目 共通問題 問題2

問題2 以下の英文を読んで設問に答えなさい。(60点)

著作権保護の観点から、公表していません

著作権保護の観点から、公表していません

出典 Martinot, D., Sicard, A., Gul, B., Yakimova, S., Taillandier-Schmitt, A., & Maintenant, C. (2022). Peers and teachers as the best source of social support for school engagement for both advantaged and priority education area students. *Frontiers in psychology*, 13, 958286.

問1 下線部①を所定の箇所にそれぞれ日本語に訳しなさい。ただし、()内の部分は訳さなくてよい。

問2 下線部②を所定の箇所にそれぞれ日本語に訳しなさい。ただし、()内の部分は訳さなくてよい。

出題意図

英文の内容を正しく把握し、要点を抑えて翻訳する能力があるかを評価する。ただし、定訳のある専門用語の翻訳においては、翻訳が間違っていなければ厳密な定訳と合致していな

くてもよい（「所属感」「抑うつ症状」などを「所属している感覚」「うつの症状」などと翻訳していてもよい）。

解答例

解答例は公表しない

選択科目 選択問題

問題1 以下の8つの用語のなかから任意の4つを選び、それぞれを説明しなさい。

解答に際しては選択した用語の①～⑧の番号を所定の欄に記入しなさい。

解答の順序は問題用紙に記されたとおりでなくても構わない。（80点）

- ① 洞察学習
- ② 処理水準モデル
- ③ アンダーマイニング効果

- ④ 確証バイアス
- ⑤ 精緻化方略
- ⑥ 三項関係
- ⑦ 前操作期
- ⑧ 選好注視法

出題意図

学校心理学およびその基礎をなす教育心理学全般の用語の理解ができているか評価する。

解答例

① 洞察学習

問題の要素を再構成することによって、突然その問題の理解に到達し、解決策を見いだすという学習。ケーラーによって提唱されたもので、彼が観察したチンパンジーが、試行錯誤を行わずに、天井から吊るされた餌を取るために、突然ひらめきを得たかのように、部屋にあった箱を積み重ねてその上に登り、餌を獲得した行動に基づいている。

② 処理水準モデル

クレイクとロックハートによって提唱された、記憶への符号化およびその後の保持は、その情報が受ける認知的処理の深さに依存し、浅い処理よりも深い処理の方が記憶の保持が良くなるとする理論。例えば、単語を「意味」で処理すると深い処理となり、単語を「音」で浅く処理する場合よりも記憶成績が高まるとされた。

③ アンダーマイニング効果

報酬を与えることが人の内発的動機づけを低下させる現象を指す。Aさんが「楽しいからやりたい」と思って自発的に取り組んでいた活動に対して、BさんがAさんに外発的な報酬（例：お金）を与えると、Aさんのその活動への興味が薄れ、「報酬のためにやる」という動機が強くなってしまうこと。

④ 確証バイアス

自分の期待や信念を確認する証拠ばかりを集めようとする傾向。自分の考えを支持する情報を重視したり収集したりする一方で、自分の考えを支持しない証拠を無視したり、そもそも探そうとしなかったりする傾向。

⑤ 精緻化方略

新しい情報を既有知識と結びつけて、より深い理解と優れた記憶保持を促す学習方略のことを指す。具体的には、新しい内容を自分の経験や知っている概念と関連づけたり、具体例や説明をつけ加えたりすることで、学習内容を意味づけて、記憶に定着しやすくすること。

⑥ 三項関係

「自己」「他者」「モノ（出来事）」の3つの要素が関わり合う関係性を指し、特に発達心理学では、三項関係の成立は、乳幼児のコミュニケーション能力の発達や、他者が自分と体験を共有する存在であることを認識する契機になると考えられている。

⑦ 前操作期

2歳から7歳くらいまでの時期を指し、この時期の特徴として、自己中心性が挙げられる。三つ山問題において、この時期の子どもは自分の位置から見える光景にとらわれて、他者が見える光景をイメージすることが苦手である。また、保存課題においても、例えばジュースの課題において、コップに入れられた「ジュースの高さ」にとらわれて、正しく課題を理解することが難しい。このように物事を1つの側面からしか見ることができないのが、前操作期の特徴である。

⑧ 選好注視法

乳児の視覚行動を観察するための手法。例えば、乳児の前に2枚の図形を並べて提示し、乳児がどちらの図形を長く注視するかを観察する。この方法により、乳児の興味の方向や視覚能力を明らかにすることができる。